

1. 人口減少社会適応策（対応策）

（1）【地域自治・地域社会のあり方】

①コミュニティのあり方

- ・人口減少社会における新しいコミュニティのあり方（中土井、ストラットン）
人と人との関係性（中土井）
- ・わがまちのありたい姿（ビジョン）を考える（ストラットン）
（持続可能性や個人の創発性に軸足を置いた社会のあり方へ転換）
- ・人口減少で崩壊しつつある「地域と地域のコミュニティ」研究（栗田）
- ・人口減少社会の中でも豊かに暮らせる社会へ（大島）
- ・過疎地域の持続可能なまちづくり（石田）
地域コミュニティの維持、集落維持活性化策の構築
- ・持続可能なまちづくり（小山）
地域コミュニティの維持、地域の活力の維持、暮らしやすいまちづくり
- ・地域コミュニティの機能低下への対策（平良木）
まず「人の力」を活かす。（地域おこし協力隊、集落支援員、冬季集落保安要員）その上で、定住を促進する。
- ・全てを行政にまかせず住民自らがこれまでの公の仕事も行っていく（A黄）
- ・住民どうしが話し合っ地域を決められる仕組みをつくる（A黄）
- ・インクルーシブ教育、障がい者、外国人いろいろな方が集えるコミュニティー創出（B黄）
- ・独居高齢者ニコニコの街 空き家問題、訪問介護、身まわり（B黄）
- ・高齢者の集住化→雪対策（Bビ）

□効率的・効果的な助け合い・支え合いの地域運営体制

人口減少社会におけるコミュニティのあり方を考えると、地域社会は地域で支えるという意識を高め、支え合い・助け合いのしくみが必要であろう。そしてそのしくみは、持続可能性、財政面を考え、効率的、効果的なしくみが求められる。

②コンパクトシティー、コンパクトなまち

- ・生活に必要なものを集中的に整備し一か所の「街」ですべてまかなえるようにする（A黄）
- ・コンパクトなまちをつくる（A黄）

- ③地域経営会社（コミュニティカンパニー）の導入（宮越）（A黄）
- ・全国に先駆け「地域経営会社」を国家戦略特区制に位置づけ導入
EX 清里区・安塚区

- ・制度導入で一市二制度のガバナンス体制 EX 中郷区・名立区

- ④ジェンダー・ギャップの解消（平良木、宮越）

- ・男女共に育児や介護などのケアと仕事を両立できる環境が必要
- ・行政と経済団体、労働団体等が協力し、「ワークイノベーション会議（仮称）」
- ・いったん家庭に入った人が再就職しやすくなるようテレワークなど
- ・産休や育休後の地位と処遇、昇進に差のつかないように
- ・性別に関係なく一人一人が自分らしく生きられる社会をつくる（A黄）

（２）【新たな技術を活用した地域課題解決】

①環境、エネルギー

- ・環境（まちの空間構造／新しいコミュニティのあり方）（中土井）
- ・再エネ開発 学校教育、科学実験→自給自足 エネルギー（B黄）
- ・道路でエネルギー構築、作った道路そのまま太陽光（B黄）
- ・用水路活用の小水力発電事業を行政がコーディネート（B黄）
- ・火力発電の排熱をハウスの熱源に（B黄）
- ・廃施設・廃屋の廃材をエネルギー源に→木質ペレット工場設置（B黄）
- ・紙おむつをバイオマスエネルギーに（B黄）
- ・ゴミのリサイクル、ZUPPEな考え、物々交換（B黄）
- ・財源不足緩和 脱炭素→コンパクトシティ（Bピ）

②デジタル化の推進

- ・スマート農業化（A青）
- ・農林業のスマート化の推進（若年就労者増）（Bピ）
- ・スマートシティー 自動運転の街（高齢化社会に）（B黄）
- ・スマートシティー、ユニバーサルデザイン、ICT、認知症の人が歩いても安心社会（B黄）
- ・ギガスクール 教育はオンライン、先生はコーチング（B黄）
- ・公務員はデジタル化を推進し、市民の中へ入りサービス充実（Bピ）

□脱炭素とデジタル化の推進

(3) 【人口減少に対応した社会システムの構築】

①地域公共交通

- ・公共交通の縮小・見直し（利用者減少、事業者不採算、高齢者の移動手段）（小山）
- ・交通（まちの空間構造／新しいコミュニティのあり方）（中土井）
- ・地域公共交通の撤退・縮小への対策（平良木）

②空き家等

- ・空き家増加への対策（小山）
- ・空き家、空き店舗、工場跡地、耕作放棄地等の増加への対策（平良木）

③生活関連サービス（小売、飲食、娯楽、医療機関等）の縮小対策（平良木）

④税収減による行政サービス水準の低下対策（平良木）

⑤小中学校の空き校舎、空き公共施設

⑥教育

- ・学校教育の見直し、教育の多様性（Bピ）
- ・教育の仕方（新しいやり方）で子ども人口を増やしていく（Bピ）
- ・余剰教員活用で複式学級解消、各地に寺子屋を（B黄）
- ・インクルーシブ教育 障がい者、外国人いろいろな方が集えるコミュニティー創出（B黄）

□

(4) 【生涯教育・職業訓練による人づくり】

①人生100年時代のリカレント教育

2. 人口維持・増加策

○全国から選ばれるまちにする（平良木）

当市の持っている「住居環境」「安全性」「子育て環境」をさらに向上させるとともに、より本質的な「暮らしやすさ」である「生活における負担軽減と行政サービスの充実」を図ることで。

再生可能エネルギー生産基地、スマート電源生産基地。

行政としてのリーダーシップの下で公共事業を総合的に運営するシュタットベルケを創設する。

(1) 【雇用確保・創出と働く環境整備】

- ・若い人に働きやすい職場（育休、時間等）（A青）
- ・企業誘致、雇用の正規化、最低賃金の引上げ（A黄）

(2) 【少子化対策と子育て支援】

①出生率向上

- ・若い世代が子育てしやすい環境整備（小山）
地方の特に若い女性が住みたくなるまち作り、働きながら子育てできる環境作り、若い女性に選ばれる地域づくり

②子育て環境の充実

- ・徹底した充実で「子育てするなら上越市」実現（平良木）
- ・子どもの医療費や保育に係る費用の無料化等「こども社会の充実」政策（平良木）
- ・子どもの暮らしやすさや子育てしやすさを重視「子どもを核としたまちづくり」（A青）
医療費、保育費、給食費など5本柱の無料化政策と経済活性化（大島）
- ・教育費の無償化、保育料の無料化（A黄）
- ・結婚・出産・育児・子育ての支援（大島）
婚活支援、結婚・子育て祝い金制度等
- ・子育てしやすいまちづくり（子育てにやさしいまち）道路など（A青）
- ・育休体制の充実 育休日本一のまちづくり（A黄）
- ・児童養護の子どもたちの里親制度推進 地域で子育て（農業からめる）（B黄）

③子どもを社会で持ちたくする政策（宮越）

- ・「子ども年金制度」導入し多子社会をつくる（A黄）
- ・保育環境、学校教育環境及び社会における子育て環境の在り方

④ジェンダーギャップから見た出生数（宮越）

- ・国際社会との比較に内在する日本社会の人口減少問題
- ・上越市におけるジェンダー格差の実態

□魅力的な子育て環境をつくる

(3) 【健康寿命延伸と医療費削減、福祉・介護】

①健康・医療

- ・自然減ゆるやかに 健康づくり政策（A青）
- ・健康な人、医療にかからない人、薬を飲んでいない人にポイント付加（A青）

②福祉・介護

- ・超高齢独居女性の生活維持のために介護予防、働く場の確保（Bピ°）
- ・介護人口を減らしていく取組をする（Bピ）

(4) 【社会増減対策と地域活性化】

①移住・定住の促進

- ・移住定住の拡大・強化（石田、大島）
特に、女性に多い、高校卒業後市外県外に進学、就職して戻らない

②交流人口の拡大

- ・交流人口の拡大・支援（石田）

③企業誘致、雇用・労働等（A青）

- ・若い人に働きやすい職場（育休、時間等）（A青）
- ・企業誘致、雇用の正規化、最低賃金の引上げ（A黄）

④空き家

- ・空き家を無償譲渡、リノベーション（A青）
- ・街ノベーション、まちの価値づくり（A黄）
- ・別荘の提供、交流人口、空き家問題（B黄）
- ・空き家利用、オーナーシップ（助成して）→income（Bピ°）
- ・空き家の処分、処理に高齢者の力を生かす（シルバー人材センターの充実・活性化も）（B黄）

⑤まちづくり

- ・若い女性に帰ってきてもらう（魅力あるまちにする）（A青）
- ・魅力あるまちづくり、子育てしやすいまちづくり（A青）
- ・保育園とスポーツ施設など商業施設を合わせた魅力創造（A青）
- ・若い女性の楽しめる施設を作る（A青）
- ・移住支援 魅力ある街づくり（A青）
- ・外国人も受け入れられる地域をつくっていく（A黄）
- ・若い女性の転出を防ぐための何か（Bピ）

□移住・定住の促進と交流人口の拡大